



## 北鎌倉 葉祥明美術館



絵には様々な見方があります。自分なりの見方をワークシートによる鑑賞を通して考え・感じてみてください。

葉祥明は空気を描く画家とも言われています。  
あなたはどんな空間を感じますか……

●題名「カモメとぼくの心」という作品です。



- ・この作品はある雑誌に掲載された作品です。  
なんという雑誌でしょうか。  
(ヒント：1973年に創刊されました)

- ・掲載雑誌は、詩を一般公募し、その詩に絵を添えるというものでした。1987年に「カモメとぼくの心」という詩に葉祥明が添えた絵が左図です。  
では逆に、この絵を見てあなたが詩を書いてください。

●1970年代に色々なグッズにもなった作品です。

- ・なんという題名でしょうか。

- ・海辺を少年と、犬が歩いています。  
少年は何を考えながら、歩いていると思いますか。また、犬の気持ちは？（絵の中の物語を考えると楽しく観ることができます）

〈少年の考え〉

〈犬の気持ち〉



\* 1979年に出版されたミニ詩画集『遠い日の夢』にも掲載された作品です。この詩画集は絵と詩、共に葉祥明さんが書きました。葉祥明さんの絵は観る人の心を投影できるように自身の気持ちを引いて描いています。対して詩は、葉祥明の奥底にある思い・愛・人生をつづっています。

●1978年に雑誌『いちごえほん』5月号に掲載された作品「星の王子さまがもどってきた」です。



・サン=テグジュペリの『星の王子さま』が大好きな葉祥明さん。上図の作品以外にも『星の王子さま』の絵をいくつも描いています。原作に沿った絵から、イメージーションをふくらませた絵まで。あなたが好きな『星の王子さま』の場面はどこですか？

・「星の王子さまがもどってきた」は、サン=テグジュペリの『星の王子さま』を受け、葉祥明独自の目線で描いたお話です。絵描きである主人公と星の王子さまとの会話の中で、星の王子さまは「簡単なこと」と言うけれど、絵描きがなかなか描けなかったのは何でしょうか。

・このお話は1978年に雑誌に掲載された後、1981年の文芸誌『詩とメルヘン』の増刊号「葉祥明の世界」にも掲載されました。原作への愛情溢れる、優しい作品です。挿絵は全4枚と少ないながら、その完成度の高さから、壮大な物語を読んだように感じます。葉祥明は「星の王子さま」以外にも名作童話などの絵を描いています。「赤毛のアン」や「ピーターパンとウェンディ」などです。あなたは他に、葉祥明さんのどのような名作シリーズをみてみたいですか？

\*まわりの人と話してみましよう。違う意見を聞くと、新しい発見が見つかるかも！